

# 小児科 臨床研修カリキュラム

研修責任者 中沢 洋三

## 1. 研修科の特色

小児科は、専門診療から保健・予防医療まで幅広く包括的な知識と技能、人間性が求められる総合診療科です。長野県内を中心とする地域と国内外の小児医療・成育医療の発展のために、健診や予防接種、育児相談などのプライマリーケア、救急・集中治療、高度専門医療、新生児・周産期医療、病態や治療方法の研究、遺伝子診断などに幅広く取り組んでいます。

臨床研修においては、小児を総合的に診るための態度と知識と技能を身につけることが大切であると考え、小児期特有の生理学、成長・発達の基本を踏まえた上での基礎的な診療技術を学びます。

大学病院という特色上、難治性疾患が多いことから、一人一人の患者さんにじっくりと関わり、病態生理や鑑別診断、治療の基本から発展について広い視野を持ち、幅広く学ぶことを目的とします。当科には八の専門診療グループがあり、それぞれ高度な専門的診療を行っていますが、入院診療においてはチーム制を導入し、異なった専門分野の担当医がグループ診療を行っています。研修医は診療チームの一つに所属し、担当患者さんの日々の診療を通して、総合診療能力を高めることができます。

院外研修として教育関連病院を選択した場合、第一線の緊張感のある小児医療を経験できます。また、長野県立こども病院での研修も希望により可能です。

こどもたちと向き合い、成長・発達を支えることで、やりがいをしっかりと体験できるのが当科の研修の大きな魅力です。

## 2. 研修目標

### 一般目標 GIO

小児の基本的な診療が可能となるために、小児の特性について把握し、小児期特有の疾患について幅広く学び、患者の発達段階に応じた診察技術を習得する

### 行動目標 SBO

1. 患者の発達段階に配慮して保護者も交えたコミュニケーションを図り、病歴や症状、家族歴を適切に聴取できる。
2. 好発年齢を考慮した鑑別疾患を列挙できる。
3. 小児・新生児のスムーズな診察を行うことができる。
4. 身体的成長や運動・精神発達を評価し、病態との関連性を解釈できる。
5. 患者の発達段階に応じたわかりやすい表現を用いて、病態や検査の必要性などについて患者本人・保護者へ説明ができる。
6. 小児に特有の病態をアセスメントし、鑑別診断に必要な検査を系統立てて選択できる。
7. 成人との相違点に注意しながら検査結果を評価し、指導医・上級医の下で患者本人・保護者へ説明できる。
8. 指導医・上級医の指導の下で、採血、末梢静脈路確保、胃チューブ挿入、導尿、浣腸、腰椎穿刺、骨髄穿刺などの手技を実施できる。
9. 検査および処置時の鎮静・鎮痛に関して、安全性を確保しながら適切な方法を選択できる。
10. 新生児・小児の蘇生法について理解し、シミュレーターを用いて実践できる。
11. 発熱、不機嫌、発疹、頭痛、腹痛、気道症状など、小児に頻度の高い症状について診察ができる。
12. 小児救急において尿路感染症、中耳炎、化膿性髄膜炎、急性脳炎、腸重積、虫垂炎、心筋炎などの見逃してはならない疾患について想起できる。
13. 川崎病、てんかん、肥満、糖尿病、腎炎、悪性腫瘍、炎症性腸疾患、新生児の呼吸障害・黄疸・周産期感染症など主要な小児疾患の病態を理解し、指導医・上級医の下で基本的な診療ができる。

14. 小児の希少・難治性症例について最新の知識を検索することができ、実臨床と関連づけられる。
15. 小児の輸液や抗菌薬・抗けいれん薬など基本的な薬剤について、適切な投与量を計算し投与できる。
16. 診療について診療録に正確かつ過不足無く記載できる。
17. 乳幼児健診について理解し、指導医・上級医の下で実施できる。
18. 予防接種の適応と禁忌について理解し、指導医・上級医の下で実施できる。
19. 多職種と情報を適切に共有し、良好な役割分担を行い、協働してチーム医療ができる。

### 3. 研修方略

(研修期間が4週の場合)

1. (SB01～9, 11, 13～16, 19) 様々な年齢層、発達レベルにある入院患者の診療を担当する
2. (SB02～9, 11, 13～16, 19) チームカンファレンスや総回診で担当患者の評価と検査・治療方針を発表する
3. (SB03, 5, 6, 8, 9, 15, 16, 19) 小児の採血、末梢静脈確保、胃チューブ挿入、導尿、浣腸、腰椎穿刺、骨髄穿刺などの侵襲性を伴う診療手技については、見学ののち上級医の指導の下で実践する
4. (SB05, 6, 7, 9, 16) 心エコー、腹部エコー、脳波判読について、上級医の指導の下で経験する
5. (SB01, 2, 4, 5, 7, 14) 担当した患者について症例レポートおよび退院時サマリを作成する
6. (SB03, 4, 6, 7, 17, 19) 1ヶ月健診を上級医の指導の下で行う
7. (SB06, 8, 18) 予防接種を上級医の指導の下で行う
8. (SB01～4, 11, 12, 16, 19) 上級医の夜間急病センター勤務に帯同し、指導の下で小児救急疾患の診療を行う
9. (SB01～7, 11～14) 上級医とともに専門外来の診療にあたる
10. (SB010) 新生児の心肺蘇生についてシミュレーション研修を受講する
11. (SB014) 診療に関連性のある学術論文を検索し、必要な医学情報を取得する
12. (SB014) 抄読会にて精読した学術論文についてプレゼンテーションを行う
13. (SB014) 担当した症例について学会等で発表する

(Advanced (4週以上) の研修の場合追加される項目:本人の希望による)

14. (SB01～10, 13～16, 19) 新生児病棟 (NICU) での臨床研修を行う

#### 4. 週間予定

	月	火	水	木	金	その他
午前	病棟回診 処置 検査 診療録記載 外来処置 または 小児科外来	病棟回診 処置 検査 診療録記載 外来処置 または 小児科外来	病棟回診 処置 検査 診療録記載 外来処置 または 小児科外来	病棟回診 処置 検査 診療録記載 外来処置 または 小児科外来	病棟回診 処置 検査 診療録記載 外来処置 または 小児科外来	休日は受け持ち患者の状態に合わせて、上級医とともに診療(任意)
午後	追加診察 検査・処置 16時チームカンファレンス ラウンド	追加診察 13時半総回診 16時 チームカンファレンス 17時 抄読会	追加診察 検査・処置 16時チームカンファレンス	追加診察 検査・処置 16時チームカンファレンス	追加診察 1ヵ月健診 16時チームカンファレンス ラウンド	
17:15以降						月に1回(主に月曜日)市内の初期急病センターにて診療

※(金)17:30-18:00 研修医クルズス

注1: 外来処置は週に1回程度

注2: 小児科外来研修は期間中に1~2回程度、希望により複数回も可

注3: 午後の追加診察は患者の状態に合わせて実施

#### 5. 評価

##### 研修期間の評価

4 週以上の研修が不足なく行われていること。また、研修医は研修において経験した項目について随時 PG-EPOC に記録する必要がある。

##### 研修中の評価

(形成的評価)

1. 日々の診療で評価し実施したことについてチームカンファレンスで報告し、指導医・上級医の指導を受ける
2. 侵襲的な処置などを行う際には指導医・上級医に報告の上で行い、終了後に行った手技の適否についてフィードバックをうける
3. 診療録に記載した内容は全て指導医・上級医の確認・指導を受ける
4. 患者やその家族の関係の持ち方について、看護師長や看護チームリーダーからの観察内容を指導医が報告を受け、その適否について研修医へフィードバックする

##### 研修後の評価

研修医は、当該研修科の研修期間の最終日まで、PG-EPOC の該当項目について自己評価を行う。自己評価が終了次第、当該科の指導医、指導者(看護師長)にその旨を報告し、評価を依頼する。研修中に経験した疾病、症状について病歴要約を作成・提出し、速やかに指導医へ評価を依頼すること。

(形成的評価)

当該研修科の指導医、指導者は、研修医評価票に記載された評価を用い、フィードバックを行う。

- ・研修医評価票 I に基づく評価  
指導医・指導者（看護師長）が、A-1 から A-4 の項目について評価し、印象に残るエピソードを記入する。
- ・研修医評価票 II（1-9）に基づく評価  
指導医・指導者（看護師長）が、1～9 の項目について評価する。
- ・研修医評価表 III に基づく評価  
指導医、指導者（看護師長）が、C-1 から C-4 の項目について評価し、印象に残るエピソードを記入する。

臨床研修評価表 I～III を基に、責任指導医は臨床研修の目標の達成度判定票を作成し、当該研修期間における目標の達成状況を判定する。

(再履修を要する場合)

- ・著しく欠勤した場合
- ・その他、再履修の必要性を当科が認めたもの

(研修科の総括的評価)

当該研修科を修了とするに不十分であると判断された場合、卒後臨床研修センター長と協議し、再履修とする。

※当科の臨床研修指導医は卒後臨床研修センターWeb サイトにて確認してください。

信州大学医学部 小児医学教室

■住所：〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1 ■電話：0263-37-2642(直通) ■FAX：0263-37-3089

■E-mail：child@shinshu-u.ac.jp

■U R L：http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/chair/i-shoni/